

学番	5 8	県立十日町高等学校松之山分校
----	-----	----------------

令和六年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 実 施 計 画					
学 校 運 営 方 針		(1) 一人ひとりの生徒に応じたきめ細かな指導の実践。 (2) 生徒が安心して過ごせる教育環境の保持。 (3) 地域保護者との連携、交流。 (4) 松高だからこそ可能な、徹底した個別学習指導。			
三つの方針(スクール・ポリシー)					
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)					
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)					
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)					
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標		
【成果】 ○定期考査後に、生徒の個別補習を行うことにより、生徒の基礎学力定着に結びついた。 ○「分校だより」等を通じて、地域へ松高の教育活動を積極的に発信することにより、松高への理解が深まった。 ○サポート事業や個別面談などを通じて生徒理解に努め、生徒の課題解決を助けることにより生徒の学校生活が安定し、保護者の信頼を得ることができた。 ○生徒主体の企画運営により、地域との交流を主眼とした学校行事が実施できた。 【課題】 ○より個に応じた学習指導、進路指導を実践し生徒の自立を促す。 ○サポート事業や生徒理解をより充実し情報を共有することで、職員一体での生徒支援を図る。		1 日本一面倒見の良い分校として、一人一人の生徒の個性、能力を伸ばす。	○「わかる授業」を通して学ぶ楽しさを教え、基礎学力を定着させる。 ○一人ひとりの生徒に応じた学習指導や個別指導を充実させ、進路実現を図る。		
		2 地域等と連携した教育活動を一層充実させる。	○松之山地域の特性を活かした多様な学習活動を展開する。 ○全職員・SC・保護者及び地域機関等の連携を強化する。		
		3 保護者が安心して子供を託せる学校にする。	○学校教育活動全体を通して、自他の生命と人格を尊重する態度を育てるとともに、いじめの起こらない学校づくりを推進する。 ○将来の社会人としての基本的資質を涵養し、社会規範を身につけさせる。		
重点目標	具体的目標	具体的方策			評価
進路指導	多様な進路希望に応じたキャリア教育を進める	進路意識を高めるために進路ガイダンスを開催する。			
		地元企業訪問と上級学校見学を実施する。			
	基礎学力の定着を図る	大学進学を目指す生徒を対象に模擬試験を実施する。また、生徒の希望に応じて公務員模試や医療看護模試を実施する。			
		模擬試験の事後指導を行う。			
		定期考査後に、到達度の低い分野、生徒の補習を行う。			
長期休業中に計画的に補習を実施する。					
生徒指導	基本的生活習慣を確立させる	身だしなみ、礼儀作法、挨拶の励行について継続的な指導を行う。			
		集団における望ましい行動について、指導を行う。			
		中高連絡協議会の情報を活用し、地域内外での生活や行動について指導を行う。			
	バイク事故を「0」にする	交通安全講習会を実施する。			
		運転経歴証明書の提出を義務化するとともに、バイク通学許可式を開催する。			
		月に一度、バイク点検及び指導を行う。			
	人権意識を培い、安心、安全な学校を作る	教職員自らが人権意識を磨き、いじめや暴力を見逃さない、許さない指導を行う。			
サポート事業や個別面談などを通じて生徒理解に努め、生徒の課題解決を助ける。					

重点目標		具体的目標	具体的方策	評価		
校内美化		校内清掃を毎日おこなう。 ワックスがけをおこなう。	全校生徒で清掃区域を分担し、毎放課後、校内清掃を行う。 学期ごとに清掃用具の点検し、衛生に努める。 校内のワックスがけを計画し、実施する。			
特別活動 (生徒会)		活気ある生徒会行事を計画、実施する。 ボランティア活動への参加を促す。	年2回、生徒総会を開く。 松高祭、体育祭を計画・立案し、感染症対策を講じながら、学年に関わらず全校の交流を目的とした学校行事とする。 地域のボランティア活動への参加を促す。 募金、献血活動などを通してその意義を理解させる。			
部活動		部活動の活性化	各種大会への参加率や部活動加入率の向上を目指す。 活動しやすい環境整備に努める。 年2回部会をひらき、計画的に活動させるとともに、目標を設定して目標達成を目指す。			
教科指導	国語	国語を的確に理解し、表現する能力を身に付けさせる	漢字の小テスト、漢字検定を通じて漢字の力を伸ばす。 読書を含め、幅広いジャンルの文章に触れさせる。 作文等、表現活動を積極的に行う。			
		古典に親しむ態度を身に付けさせる	辞書やタブレットの活用を指導し、自ら学ぶ力を養う。 音読、朗読、暗唱をとおして古典に親しむ。			
	地歴 公民	社会の諸事情に対する関心を持たせる	新聞等のニュースを授業で取り上げ、身近な問題に対する関心が高められるようにする。			
		歴史的思考力と公民に必要な思考力を自ら育てる	資料集等の副教材を有効に活用する。 復習プリントや小テスト活用し、自ら学ぶ姿勢を育てる。			
	数学	計算力を向上させる	問題演習の授業を定期的に行い、基本事項の定着を図る。			
		数学的な見方・考え方の良さを認識させる	疑問、考察、実行、振り返りを1サイクルに数学的な活動を通じて、数学的な見方・考え方の良さを実感する。			
		論理的に考える力を養う	授業の中で公式に頼るのではなく論理的に考えることで問題解決できることがあることを実感させる。			
	理科	科学的に探究する能力、態度を育てる	観察実験については年6回以上行うものとし、結果に対する論理的かつ客観的な考察を重視する。			
		科学的な自然観を育成する	新聞・ニュースやインターネットなどから取り上げた身近な自然現象の話題を教材として活用する。			
	保健 体育	基礎体力を付ける	毎時間5～10分間の有酸素運動と補強運動を取り入れる。			
		生涯スポーツへの動機付けを行う	ニュースポーツを導入し、少人数でも動く楽しさを学ばせる。			
		健康に関する興味関心を深める	新聞を活用し、スクラップノート作りを徹底させる。			
	英語	英語の基礎力を確立させる	英語の語順を理解し、文法項目を使い、作文・発話できる。 平易な文章を、辞書の助けを借りて自分で読み取れるよう、英文を読む機会を増やす。			
		コミュニケーション能力の伸長を図る	英語のリズムで教科書を音読することを通じて発信もできることをめざし、実技テストを学期に1回実施する。			
人権教育、 同和教育		差別とは何かを理解し、人権を尊重した判断力・行動力を養う	「講演会」を1回、ビデオ学習会を1回実施する。 差別問題を身近なこととして捉えられるよう適切な教材を選択する。			
PTA・渉外 活動		PTA活動の活性化を図り、青少年の健全育成に取り組む	家庭環境や社会の変化に迅速に対応するため、各種研修会に参加する。			
地域との 連携 広報活動		地域と連携した教育活動を展開する	外部人材を活用した「総合的な探究の時間」を展開する。 地域の協力を得てインターンシップなどキャリア教育を実践する。			
		広報活動を充実する	PTA便りを年2回町内全戸回覧する。 毎月分校だよりを町内全戸回覧。十日町市内、津南町の中学校に毎月配付するとともにHPに掲載する。			
成果					総合評価	